# 移住地資料

昭和33年5月1日

海協連

国際協力事業団

受入月日 '84. 9. 13

登録No. 15008

000
23.4
EA

# 目　次

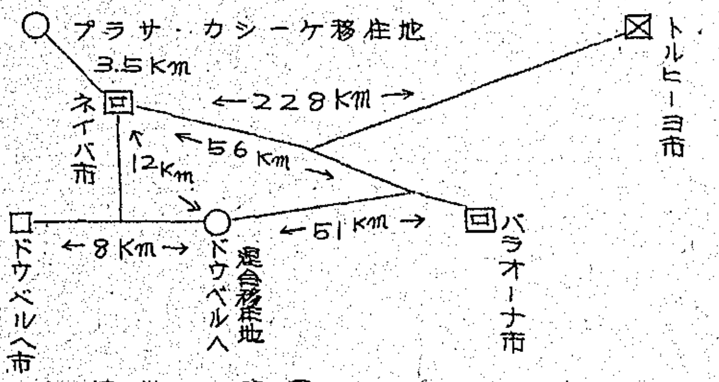
ドミニカ国
ネイバ入植地……………………1
ドウベルヘ入植地……………………7
その他の入植地……………………11
パラグアイ国
フラム入植地……………………13
ボリビア国
サンファン入植地……………………27
ブラジル国
アマゾン流域入植地……………………33
中伯入植地……………………39
小売物価一覧表
パラグァイ国エンカルナシオン……………………47
アルゼンチン国ブエノス・アイレス……………………49
ボリビヤ国サンタ・クルス……………………50
ブラジル国サン・パウロ……………………52
ブラジル国ベレン……………………53

JICA LIBRARY
1023813[7]

# (イ) ネイバ入植地

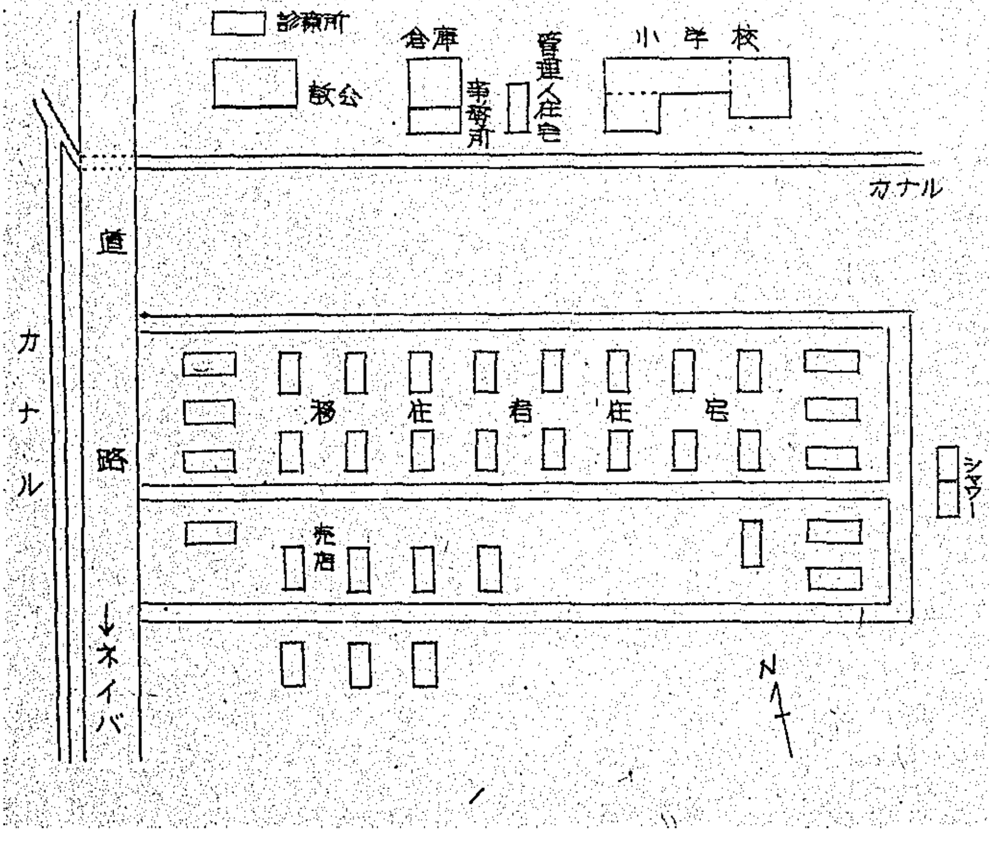
## 1. 入植地の概況

### a. ネイバ入植地の位置

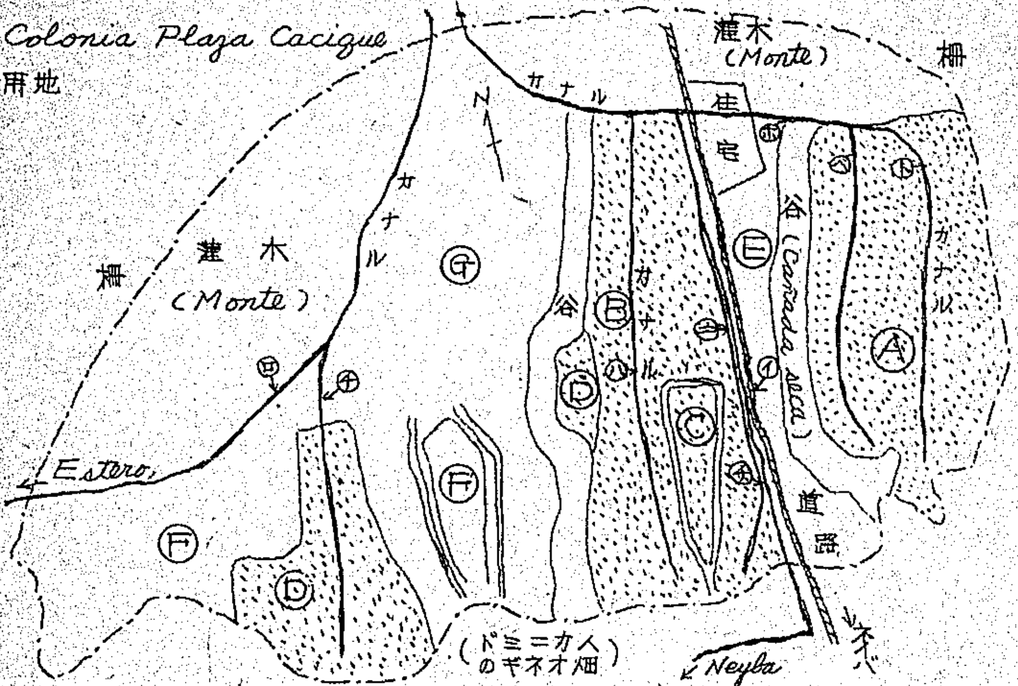



### b. 入植地の略図

略図一 プラサ・カシーケ住宅地



略図 2
Colonia Plaza Cacique
用地




◎ 耕 地

現在までに

| | |
|---|---|
| 第5次移住者（15家族）各87タレア<br>第2次移住者（ 2家族）各50タレア<br>（漁業者よりの転入者）<br>第6次移住者（ 4家族）各100タレア | の土地が配分されている。 |

略図(2)による

Ⓐ（600タレア）第5次移住者耕地
Ⓑ（705タレア）　〃
Ⓒ（100タレア）第2次移住者耕地
Ⓓ（400タレア）第6次　〃
Ⓓ（ 20タレア）　〃　〃　野菜畑
Ⓔ　農務省ヴィーニャス技師の言によれば、水量を増すためのカナルを新設するまでは利用しない。

Ⓕ 第3次、第6次移住者の追加配分用地、ならびに牧場を作ることが考えられている。

Ⓔ 第5次移住者用地

Ⓖ 石山といってよいようなところ。

## d. 用水路(カナル)の使用

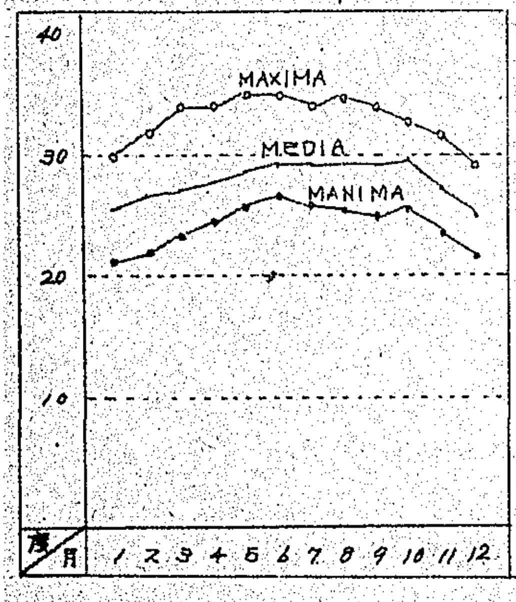
農務省の計算では、日本人耕地に使用する水量は250ℓ/sec.である。なお、現在日本人が使用出来るのは朝六時から夕六時までの12時間で、夜間はドミニカ人が使用する。

水の管理に関しては農務省の水利局があたり、このコロニアはネイバ市にある水利事務所( *ofisina de riego* )の管轄であり(ドゥベルヘはバラオーナの水利事務所)同事務所から水利官が派遣されるが、現在、朝六時から水を利用出来る為、日本人間で水利委員を作り、その任にあたっている。

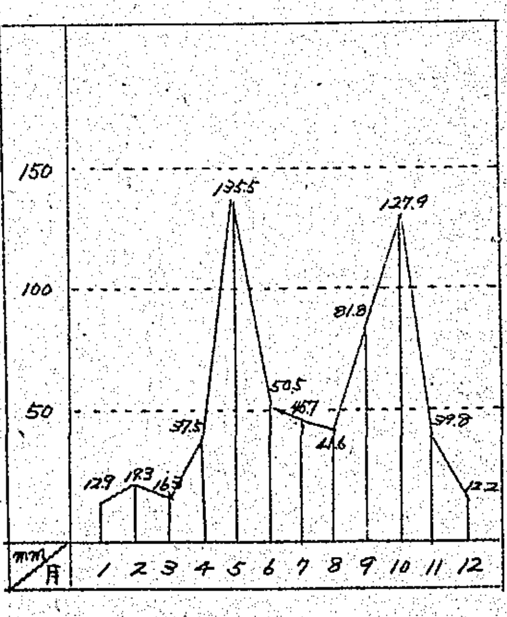
## e 気候

### (1) 気温、降雨

ネイバ市に於ける1952年の最高最低平均気温




ネイバ市に於ける1952~55年の4年間の平均降雨量



ネイバ地方に於ける耕作は降雨に頼るのは不可能で、殆どカナルの水量に依存する。しかるに、現在(12,1,2月)の水量では、略図2の(B)(C)(D)の約1,000タレアを水輪番をしながら、漸くうるおす程度である。従って四月以降の降雨によるカナルの水量が増大すれば(A)(F)への作付の拡張が行われるであろう。

水の点から言っても、当コロニアでは、水のあまり要らない永年作物を導入しない限り、全面的に土地を消化することは不可能であり、又、カナルの水量の少い12～3月は作付制限を考える必要がある。

## 2 営農状況

### a. 作付計画

第5次移住者入植当初の同移住者15家族に対するド国農務省の作付計画案は、ヴィーニャス技師によれば、大体左の如きものである。

| 作物 | 面積 | 播種期 |
|---|---|---|
| アビイチュエラ豆 | 600タレア | 11,12,1月 |
| タバコ | 200 〃 | 11,12月 |
| サツマイモ | 100 〃 | 11,12月 |
| ユカ | 100 〃 | 11月 |
| 蔬菜 | 60 〃 | 11,12月 |
| パパイヤ | 40 〃 | 〃 |
| ニンニク | 50 〃 | 〃 |
| ジャガイモ | 60 〃 | 〃 |
| 大豆 | 30 〃 | 〃 |
| 計 | 1,240タレア | |

以上が第5次移住者15家族に対する第1回(11～1月)の大体の作付計画案であるが、それ以後にトウモロコシ、牧草、果樹等を植える。

その他、牧畜の供与については、現在牧草、飼料がなく、ここで飼

料を購入して飼育するということは高価なものになるから、飼料の見通しがついてから、馬或はムーロを供与する。
又、後々、蜜蜂を試験的にやってみることも考慮している。
大豆は、ドミニカ人には需要がないから自家消費程度に止める。
落花生の作付は行わない。ドミニカでの落花生の用途はほとんど全部食料油用であり、そのため含油量の多い小粒種を栽培しているが、菓子及び煎豆用として日本の大粒種を試験的に少量作ってみることもよい。
原則として等高線栽培を行う。
各人の耕地の境界にはココヤシ或はグァンドウシを植える。

b. 農務省の支給物（入植以来今日までに支給されたもの）

(1) 小農具

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| スコップ | 各1 | レーキ | 各1 | 鍬 | 各1 |
| マチエテ | 各1 | ジョロ | 各2 | ホース（2家族） | 1 |
| 穴掘り（hoyo） | 各1 | | | | |

右の外、散粉器、噴霧器を共同用として若干備えてある。

C. 作付状況

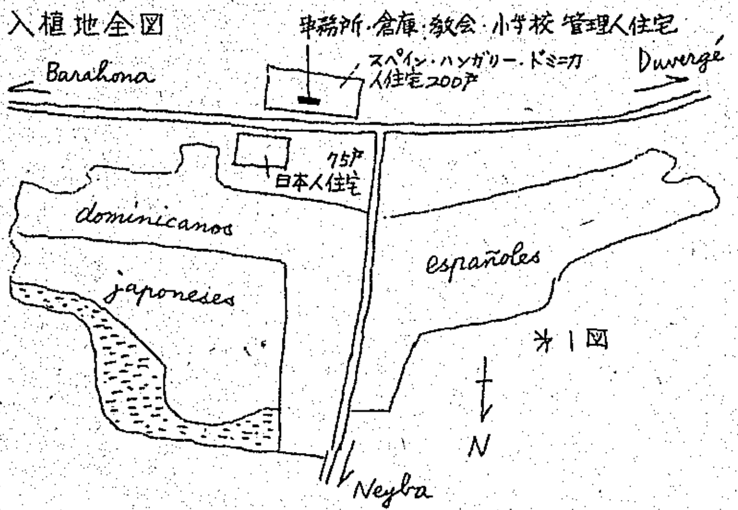
| | | | |
|---|---|---|---|
| サツマイモ | 28タレア | ギネオ | 237タレア |
| タバコ | 200 〃 | トウモロコシ | (800) 〃 |
| アビィチュエラ | | ジャガイモ | 8 〃 |
| ユカ | 48 〃 | ブドウ | |
| 野菜 | 100 〃 | 大豆 | 10 〃 |

上は管理官調査によるものであるが、実際には間作を行っているから、実際の耕作面積は約1,000タレアである。

# (ロ). ドウベルヘ入植地

§. 入植地の概況

(a) 入植地全図




第1図

(b) 入植者数

現在のドウベルヘ混合植民地の入植者数は

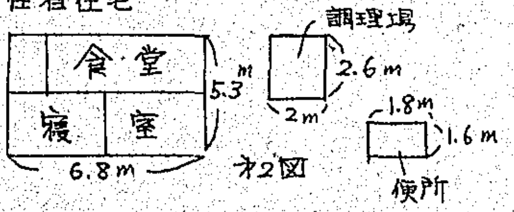
| | | |
|---|---|---|
| スペイン人 | 15 家族 | 120名 |
| ハンガリー人 | 12 〃 | 27名 |
| ドミニカ人 | 115 〃 | 778名 |
| 日本人 | 40 〃 | 160名 |
| 合計 | 182 〃 | 1.085名 |

このうちドミニカ人の一部24家族は上図の日本人住宅および日本人耕地の一部に入っている。

(c) 入植地の施設

事務所 1、診療所 1、(医師 1、助手 1、助産婦 1)
倉庫 1、教会 1、小学校 1、(教師 3)
国家警察駐在所 1、住宅 275

(d) 移住者住宅




第2図

水道は各戸にあるが、飲料用であり、家庭菜園を灌漑するには充分でない。 又電燈の設備は58年2月現在まだなく、発電機により現在事務所・学校・管理人住宅のみに使用している。

(e) 耕地及土地配分

本移住地の耕地は第1図に示すようなもので、大体平らであり塩分を含んでおり、一部には塩分が結晶している箇所もある。全面積は2万タレアといわれ（1タレアは約6畝）日本人耕地は住宅からはかなりの距離がある。第一図 の部分は低地になっており塩分も強い。上記の部分を除き日本人移住者は各100ターレアの配分をうけている。

(f) 雨量

ネイバと大体同様であり、耕作は灌漑用水に頼らざるをえない。

(g) 作付計画

コロニア管理官の説明によると

㋑ 稲は播種しない。（このコロニアではスペイン人が少量の稲を作っているがそれ以上の作付は許可していない）

㋺ 作付を許可されるものは次の通りである。

プラタノ・ギネオ・ユカ・サツマイモ・カボチャ
トウモロコシ・落花生・アヴィチュエラ・セボジン
サトウキビ・ブドウ・メロン・パパイヤ・野菜一般
(キャベツ・カリフラワーを除く)

㋩ 作付の割合

| | | | |
|---|---|---|---|
| プラタノ | 40% | ユカ | 10% |
| ギネオ | 10% | その他 | 30% |
| サツマイモ | 10% | 計 | 100% |

上記の割合は各人に対するものであるが、大体の基準を示したもので多少の変動はさしつかえない。

㊁ 等高線灌漑を行う。

㊄ 落花生・トウモロコシは各家族に於て播種する予定。

(h) 病虫害と雑草

他のコロニアと同様、病虫害がかなり多く多量の農薬を必要とする。一般にドミニカに於ては病虫害及雑草の発生が強烈であるため、自家労力で経営できる面積は、主として病虫害防除と除草に要する労力の面で規制される。潅漑の問題とならんでこの問題が栽培上もっとも大きな因子(労力的に)である事は移住者は身にしみて覚らされるのである。コンスタンサにおける雑草でもっとも強じんなのは、コキートである程度成長すれば地下の吸枝の端に玉をつくり、ぬいてもぬいてもでてくる悪質な雑草である。この草の繁茂する畑はロクなものはできない。絶滅には二回あるいは三回連続的に引きぬいてしまう方法がとられる。この際雇用労力費がなかなか大きいのである。試験的に2・4D等の除草薬が使われるが農薬の高価な当国では経営上問題にならない。経営が大きくなるにつれて雑草に強い木本性の作物が選ばれるかそれとも積極的に他の草を生やす方法(草生栽培・ユナイテッドフルート会社のバナナ園はこれである)がとられる。

病虫害の方は最近農薬の大きな進歩によって影響度を減じている。コンスタンサで発生した病虫害の主な例を参考までにかゝげると

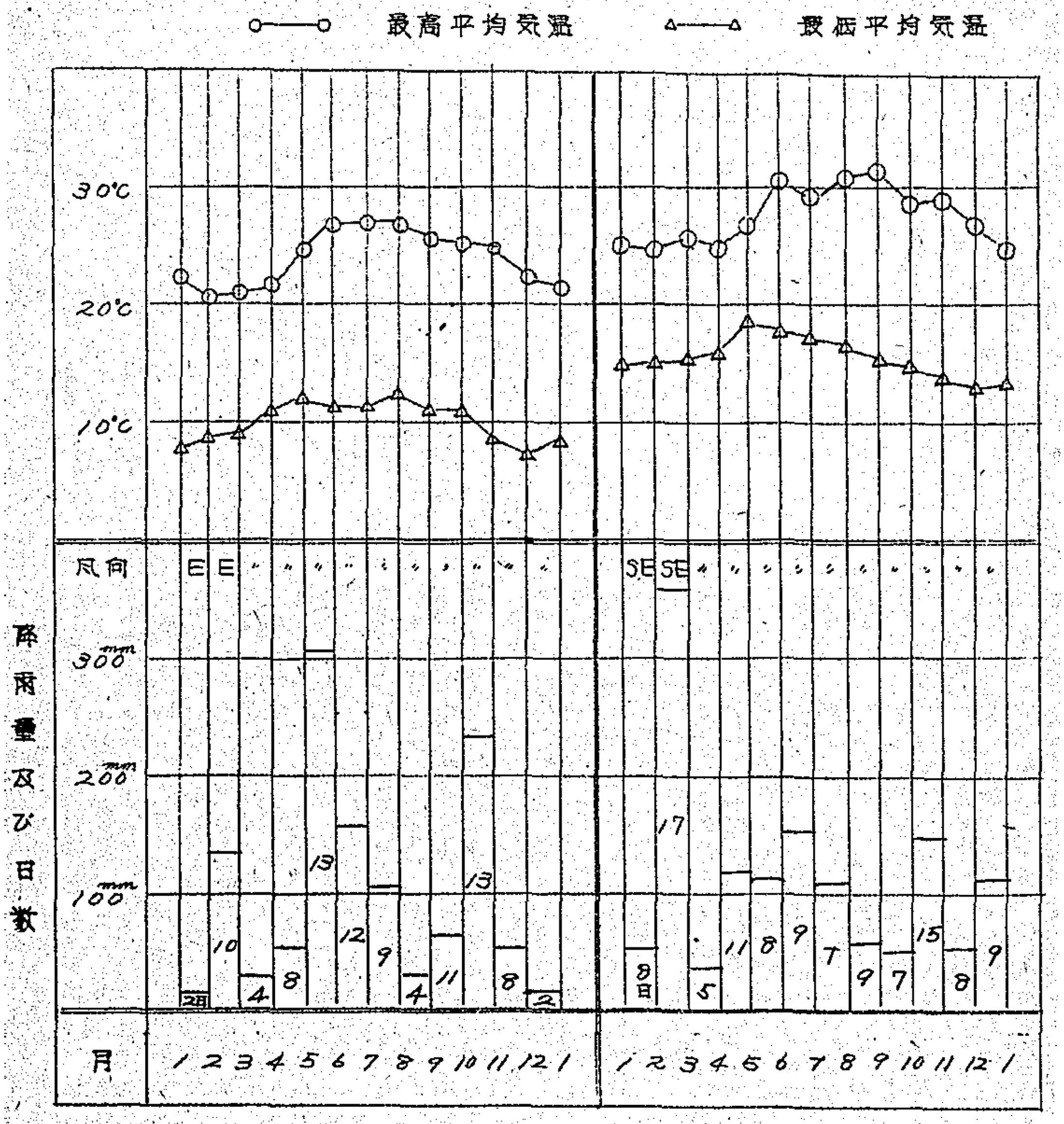
| 作物名 | 病害名 | 虫害名 |
|---|---|---|
| 馬鈴薯 | 疫病 | 心もぐり虫 |
| キャベツ | | 夜盗虫(雑食性)<br>根切虫・あぶら虫 |
| ナス | 線虫(オマトーダ病) | |
| トマト | 疫病 | |
| トウモロコシ | | 心喰い虫 |

(以上ドミニカ支部通信)

## (ハ) その他の入植地

a 気温ヒ降雨

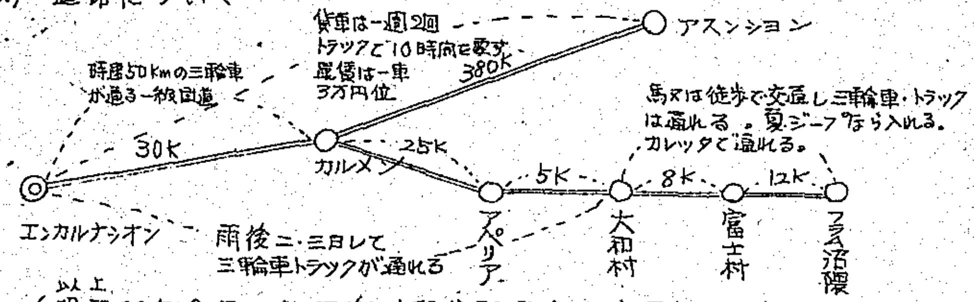
コンスタンサの気候(1954)　　ハラバコアの気候(1954)



# (イ) フラム入植地

§ 入植地の概況

(a) 道路について




以上(昭和32年9月;神原海外移住研究会報告書)

テーラロシアという土は微粒子であるため一度雨が降ると自動車は動けなくなる。国道は交通止になって馬及人が歩く以外はどうすることもできない。雨が降り止んで一昼夜すれば交通止が解除となるが、それ迄にどうしても通りたいときは警察の許可を必要とする。この交通止は路面の荒廃を防ぐためである。日和になればすぐコチコチとなって自動車が通ってもセメントの上を通るようで国道などは80K以上のスピードがだせる。

(昭和32年8月; 大正町山脇団長報告)

(b) 気候について

「我々が到着したのは6月4日であり冬の始めである。現在8月上旬であるから真冬をすごしたわけだが、大きい霜が三回普通の霜が3回霜の程度が2〜3回で洗面器に薄氷のはった事が3回程あった。朝晩は相当に冷えてシャツ・英ネル、セーター各一枚着る位である。夜は敷布団、毛布、上布団各一枚で寒くない。昼間は暑くユニホーム一枚で結構であり、木陰に入れば涼しい位である。現在冬で雨が多いが、雨の降る日は寒い日が多く、それでも日本の10月中旬〜下旬と考えればよいだろう。」(上述 山脇報告)

我々は内地で健康地であることは充分聞いていたがこれ程のところとは思わなかった。この2ヶ月余に団員120名の中に風邪をひいて寝た者すらない。内地でゼンソクの持病で苦しんでいた老人がケロリとなおって一日として休んだことがない。　水についてもエンカルナシオン市内を流れている川は不潔でとても呑めないが、植民地内に流れている川はきれいで全部生水を飲んでいるが一人の下痢患者も出ない。

（上述：山脇報告）

(c) 植生について

ジヤングルは内地で想像した程ではないが何と云っても大自然林であり大木を倒すための下刈に相当の手間を要するようである。木は直径3尺・4尺はザラにあり平均しても2尺5寸位はあると思われる。しかしながら所によっては　直径一尺～1尺5寸位のところもあり一様ではないが実によくのびており少くとも70尺はあるだろうと思われる。地面はほとんど平地で内地では見ることもできないようなところであるが、やはり谷あり湿地あり又草原ありで広い面積の中には色々な地形があり、又ところによっては石もあるが、ほとんど全面積肥沃なテーラ・ロシア地帯である。

（上述：山脇報告）

(d) 食生活について

米は非常に安く味は日本で買う外米とは比べられない程よいので我々はもうすっかり馴れて日本の米と同じようにおいしく頂いている。牛肉は三等肉位だが非常に安く、沢山食べて見違えるように肥えた人もいる。塩はいくらでもあり、味噌醤油も2～3年前に移住した人で作っている人がいる。酢は野生ミカンに酢の強いものがあるのでこれを利用している。

（上述：山脇報告）

§ 統計表（STICA―米国の援助団体―の統計表による）

(a) 主要農作物生産状況

| 作物名 | 作付面積 (ha) | ha当りの生産額 kg | 生産総量（屯） | 価額 (1000Gs) | 10kg当の価格 |
|---|---|---|---|---|---|
| アルファルファ | 2.360 | 5.050 | 12.000 | 37.000 | 31 |
| 棉 | 48.500 | 730 | 35.500 | 301.750 | 85 |
| 果実 | 1.300 | 650 | 840 | 11.760 | 140 |
| 米 | 9.000 | 2.100 | 19.000 | 95.000 | 50 |
| さつまいも | 7.650 | 9.800 | 75.000 | 150.000 | 20 |
| 甘蔗 | 14.000 | 27.000 | 380.000 | 171.000 | 45 |
| 玉葱 | 2.150 | 3.000 | 6.650 | 59.850 | 90 |
| アビリア豆 | 1.720 | 820 | 1.410 | 14.100 | 100 |
| とうもろこし | 92.300 | 1.300 | 120.000 | 420.000 | 35 |
| 落花生 | 10.690 | 890 | 9.500 | 76.000 | 80 |
| マンジヨカ | 61.500 | 15.450 | 950.000 | 950.000 | 10 |
| ジヤガイモ | 570 | 5.600 | 3.200 | 12.800 | 40 |
| ポロット豆 | 22.700 | 810 | 18.400 | 110.400 | 60 |
| タバコ | 5.500 | 1.000 | 5.500 | 66.000 | 120 |
| 小麦 | 3.800 | 700 | 2.660 | 18.620 | 70 |
| 合計 | 283.740 | — | — | 2.494.480 | — |

この表は1955〜56収穫年度の統計である。

(b) 主要輸出統計

| 品名 | 数量（屯） | 金額（ドル） | % |
|---|---|---|---|
| 木材 | 240.531 | 10.966.000 | 31.8 |
| ケブラッチヨ抽出物 | 34.468 | 6.097.000 | 17.6 |
| 綿 | 10.219 | 5.565.000 | 16.3 |
| 肉製品 | 10.633 | 4.461.000 | 12.7 |
| 牛の皮革 | 9.470 | 1.908.000 | 5.5 |

| 品目 | 数量(屯) | 金額(ドル) | % |
| --- | --- | --- | --- |
| タバコ | 3.156 | 1.294.000 | 3.7 |
| 油 | 3.693 | 1.217.000 | 3.5 |
| エセンシヤル油 | 220 | 1.074.000 | 3.2 |
| マテ茶 | 2.890 | 511.000 | 1.5 |
| 果物 | 2.080 | 157.000 | 0.5 |
| その他 | 14.723 | 1.202.000 | 3.5 |
| 合計 | 332.088 | 34.454.000 | 100.0 |

(C) 輸出入金額

| | 1950 | 1951 | 1952 | 1953 |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 輸出額 | 167.700 | 208.200 | 298.200 | 527.600 |
| 輸入額 | 84.800 | 166.500 | 278.400 | 698.000 |

但し単位は1000グワラニー

(d) その他の統計

人口　　1.505,000人

面積　　406,752平方キロ

一平方キロ当り人口　　3.71人

## 8 営農関係

### (9) 作物別播種期及収穫期一ラン表

| 作物名 | 播種期 | 収穫期 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 米 | 10月末～12月中旬 | 3月 | |
| 麦 | 5～6月 | 11～12月 | |
| トウモロコシ | 7～9月 | 11～12月 | |
| 大豆 | 11～12月 | 5～6月 | |
| ポロット豆 | 11～12月 | 4～7月 | |
| 落花生 | 6～9月 | 12～1月 | |
| エンドウ豆 | 5～8月 | 10～1月 | |
| ウズラ豆 | 11～12月 | 5～6月 | |
| じゃがいも | 7～10月 | 11～1月 | |
| さつまいも | 9～10月 | 3月 | |
| 綿花 | 9～11月 | 3～5月 | |
| 煙草 | 9～10月 | 12～1月 | |
| セリ | 5～8月 | 約2ヶ月後収穫 | |
| チシャ | 4～8月 | 1ヶ月後より収穫 | |
| サトウ大根 | 4～7月 | 約3～4ヶ月後 | |
| ヒマワリ | 6～10月 | 12～2月 | |
| ナス | 7～9月 | 2～3月 | |
| トマト | 7～9月 | 11～3月 | |
| キウリ | 7～9月 | 11～3月 | |
| カボチャ | 7～9月 | 11～3月 | |
| 西瓜 | 7～9月 | 12～1月 | |
| イチゴ | 7～9月 | 12～2月 | |
| 玉ネギ | 4～6月 | 12～2月 | |
| 大根 | 年中 | 約1ヶ月後収穫 | |
| 白菜 | 年中 | 約1ヶ月後収穫 | |
| ホウレン草 | 年中 | 1～2ヶ月後収穫 | |

| 作物名 | 播種期 | 収穫期 | 備考 |
| --- | --- | --- | --- |
| ネギ | 年中 | 6ヶ月後 | |
| 人参 | 年中 | 3ヶ月後 | |
| カンラン | 4～6月 | 約2～3ヶ月後 | |
| 油桐 | 8～9月 | 4～7月 | 満3年後より収穫できる |
| マテ茶 | 4～5月 | 4～7月 | 同上 |

(以上支部通信)

(b) 生産物の販売について

フラム地区の自然条件は予期した通り申分ない。土地はいわゆるアルトパラナソイル地帯で、ブラジルでいうテーラロシアに属し、とうもろこし、米、大豆等の出来は実にすばらしいものである。問題は生産物をいかに売さばくかという市場の問題であって入植者一同はこの問題にぶつかっている。政府はアルゼンチンからの小麦の輸入を抑えるため、保護政策をとってアルゼンチンの小麦輸入価格キログラム当り5ガラニーに対し、国内産7ガラニーで買付けることを約束したけれども国立銀行の倉庫へ搬入した小麦代金が未だに支払ってもらえないとかこつている。パ国政府も努力しているが資金が直ちに涸かつするらしいのである。大豆を播けばすばらしいできばえで日本などではかつて見たこともない程みのりがあり、多い人は陌当り4トンもとれたけれど金にならない。現在チヤベス地区と合して300戸の日本人がとうもろこしを850陌ばかり栽培しており、この収量約1500トンと予想されるが、これが金にならないと問題は大きい。とうもろこしKg当価格は3～3.5ガラニーと予想される。これは日本人が勤勉と生産力豊かな土地にものを云わせて競走的に生産を拡大した結果である。附近に独人や露人の植民地もあるが彼等はこういうやり方はしない。まず自分の生活環境をととのえ、自給体制を充

分とってから除々に販売作物にかゝっていくから失敗は少いとのことである。私はこの国に入植するものの心構えとしては、将来を慮り永年作物の油桐、マテ茶、柑橘の苗を年々その力に応じて植えて行くこと以外は速やかに食・飼料の自給態制をととのえ持久戦に入る覚悟が必要である。そしてその間持参金をなるべくすり減らさぬ様に温存し、入植当初から金のあるにまかせて人夫をやとい伐木・開墾面積を拡げるなどはつゝしむべきであると思う。

(58年3月　農林省中田技官報告)

(C) チャベス農業協同組合の作付一ラン表　( )内は一戸当面積

| | | 新穂 | 中央 | 栄 | 美和 | 旭 | 東 | 大和 | 日の本 | サンタマリア | 合計 | 一戸当 | 既開拓面積に対する比 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ロッテ(町) | | 622 | 535 | 500 | 220 | 695 | 365 | 275 | 100 | 106 | 3.418 | (33.5) | |
| 既開拓面積(町) | | 147 (10.5) | 112 (8.6) | 127.5 (7.1) | 31 (3.9) | 119.5 (6.0) | 70 (10.0) | 52.5 (10.5) | 46.5 (6.6) | 34 (3.4) | 740 | (7.4) | |
| 56年度開拓予定面積(町) | | 67 (4.8) | 36.5 (2.8) | 27 (1.5) | 37 (4.6) | 71.5 (3.6) | 30 (4.3) | 36 (7.2) | 30 (4.3) | 35 (3.5) | 370 | (3.7) | |
| 入植戸数 | | 14 | 13 | 18 | 8 | 20 | 7 | 5 | 7 | 10 | 102 | | |
| 入植人員 | | 82 | 77 | 85 | 31 | 106 | 49 | 31 | | | | | |
| 永年作物(町) | 油桐 | 32 (2.3) | 20 (1.5) | 32 (1.8) | | 34.5 (1.7) | 39 (5.6) | 16 (3.2) | 4.5 (0.7) | | 178 | (1.8) | % 24.1 |
| | マテ茶 | 3.5 (0.3) | 2 (0.2) | | | | | | 2 (0.3) | | 7.5 | | 1.0 |
| | ブドウ | 0.5 | 2 (0.2) | | | | 0.5 (0.1) | | 1 (0.7) | | 4 | | 0.6 |
| | 其の他の果樹 | 1.5 (0.1) | 1 (0.1) | | | | | | | | 2.5 | | 0.3 |
| | 計 | 37.5 (2.7) | 25 (2.0) | 32 (1.8) | | 34.5 (1.7) | 39.5 (5.7) | 16 (3.2) | 7.5 (1.1) | | 192 | (1.9) | 26.0 |
| 一年作 | マンジョカ | 26.5 (1.9) | 6 (0.5) | 11.5 (0.7) | 3.5 (0.4) | 15.0 (0.8) | 5 (0.7) | 4 (0.8) | 6 (0.9) | 8 (0.8) | 85.5 | (0.8) | 11.6 |
| | トウモロコシ | 50 (3.6) | 46.5 (3.6) | 73 (4.1) | 11 (1.4) | 15.5 (0.8) | 25 (3.6) | 20.5 (4.1) | 18.5 (2.7) | 9 (0.9) | 246 | (2.6) | 36.3 |
| | 綿 | 36 (2.6) | 23 (1.8) | 24.5 (1.4) | 11 (1.4) | 25.5 (1.3) | 12 (1.7) | 22 (4.4) | 6.5 (0.9) | | 160.5 | (1.6) | 21.6 |

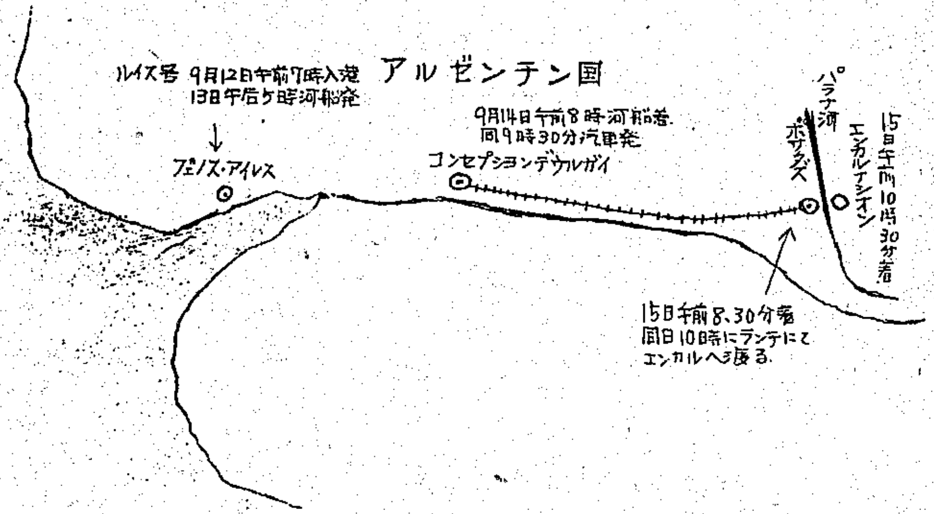
| | | 高千穂 | 中央 | 栄 | 美和 | 旭 | 東 | 大和 | 日の本 | サンタマリア | 合計 | 一戸当 | [illegible] |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一年作 | 落花生 | 5.5 (0.4) | 5.5 (0.4) | 5 (0.3) | 3 (0.4) | 4.5 (0.2) | 5 (0.7) | 6 (1.2) | 3 (0.4) | 1 (0.1) | 38.5 | (3.8) | 5.2 |
| | 小麦 | 3 (0.2) | 11.5 (0.9) | 11.5 (0.7) | 3.5 (0.4) | 14.5 (0.7) | 9 (1.3) | 7.5 (1.5) | 8.5 (1.2) | | 69 | (0.7) | 9.3 |
| | 稲 | 0.5 | 1 (0.1) | 8.5 (0.5) | 1.5 (0.2) | 0.5 | 1.0 | | | 12 (1.2) | 25 | (0.2) | 3.3 |
| | 玉ネギ | 3.5 (0.3) | 1.5 (0.1) | | 1 (0.1) | 3.5 (0.2) | | | | | 9.5 | | 1.2 |
| | 菜種 | 4 (0.3) | | | | | | | | | 4 | | 0.5 |
| | 豆類 | 4.5 (0.3) | 17.5 (1.3) | 22 (1.2) | 4.5 (0.6) | 12.5 (0.6) | 7.5 (1.1) | 8 (1.6) | | 0.5 (0.1) | 77 | (0.8) | 10.4 |
| | トマト | 0.5 | | | | | | | | | | | |
| | 其の他 | 14 (1.0) | 5 (0.4) | 6 (0.3) | 2.5 (0.3) | | 2 (0.3) | | 3 (0.4) | 2.5 (0.3) | 35 | (0.3) | 4.7 |
| | 計 | 148 (10.6) | 117.5 (9.0) | 162 (9.0) | 41.5 (5.2) | 91.5 (4.6) | 43 (6.0) | 68 (13.6) | 45.5 (6.1) | 33 (3.3) | 750 | (7.6) | 101.4 |
| 次年度永年作作付計画表 | 油桐 | 51 (3.6) | 43 (3.3) | 58 (3.2) | 48 (6.0) | 41.5 (2.8) | 36 (5.1) | 31 (6.2) | 17 (2.4) | | 325.5 | (3.1) | |
| | マテ茶 | 41.5 (3.0) | 10 (0.8) | 23.5 (1.8) | | | 18 (2.6) | 15 (3.0) | 26 (3.7) | | 134 | (1.3) | |
| | ブドウ | 6 (0.4) | 3 (0.2) | 1 (0.1) | | | | | | | 10 | (0.1) | |
| | 其の他の果樹 | 4 (0.3) | 1 (0.1) | 5 (0.3) | | | | | | | 10 | (0.1) | |
| | 計 | 102.5 (7.3) | 57 (4.4) | 87.5 (4.9) | 48 (6.0) | 41.5 (2.8) | 54 (7.7) | 46 (9.2) | 43 (6.1) | | 479.5 | (4.6) | |

1956年度

§ フラムへの道すじ

昭和32年9月に入植したルイス号乗船者の場合を例にとつてフラムまでの道中の概要をのべてみよう。

(a) 道中略図




(b) ブエノスアイレス上陸の際の移住者の荷物に関しては

1. 船倉荷物は接岸と同時に荷揚げされ、保税倉庫に搬入し、計量を行ってエンカルナシオン行列車で直送される。（収容所到着は、時によって異なるが1週間～2週間位の日数がかかる。）
通常税関検査は行われないようである。

2. 船室手荷物（今回の場合1家族平均15,6個）は河船乗換え当日になってトラック便が来るまで移住船内に置いて搬出してはいけない。トラックに積込む際、税関吏が立会う。荷物の横流し防止のため、税関吏（今回は2名）と、移住者（数名）もトラックに上乗りする。従って船室荷物は、移住船からトラックへと積み換えるのみで．検査場へは搬出しない。
通常税関検査も行わないようである。

3. 移住者はバスで河船発着所へ赴くが．バスの中えは手荷物

を持込まない方がよい。税関吏がバスに乗込んで検査することがあるから。
これを見付かると他の者も全部検査を受けることは勿論、戦後移住者については異なった方法を採られる恐れがあるから、この点充分注意しておく要があると思われる。

(C) 上陸から河船乗船まで

ルイス号接岸の埠頭にア和あっ旋によるバス(座席36人分)が来て、移住者は直ちにバスに便乗。この場合手荷物は一切バスの中には持込まない方がよく、バスが税関通用門を通過するときバスに乗込んで検査される場合、荷物がなければ通過も容易で面倒も起らないが、カメラなど携行していると、面倒になる。
これは、バスが一時的にせよ河船発着所へ行くにはブエノス・アイレス市内を通過しなければならず、この市内通過途次に移住者が品物を現地人に売ったりする可能性もでて来るからと言う見解から来ている。このため手荷物の一切は、船倉荷物を運ぶ別便トラックに積込む方法をとっている。手荷物は河船発着所に到着するまでの間、約15分移住者の手許を離れるのみであるから、移住者にとっては大した不便を感じることもない。本船から河船発着所までの距離は約2キロ、所要時間は約15分である。

従来、移住船がブエノス・アイレスに入港し河船に乗換えるまで2日乃至3日間の待機日数があり、ブエノス・アイレス市内の見学や買物の時間があった由であるが、今回の場合は、入港翌日に河船に乗換えることとなり、時間的余裕が少かったので、ダルセナ・スールまでの道路を利用し、バスで窓外の市街地、公園、等を観光しながら河船発着所に向った。途中下車は全然行わない。

ダルセナ・スール(河船発着所)に着いたのは午後3時35分、先着の荷物を積込んだトラック(移住者3名が上乗りした)

から荷物を下し、船内持込荷物と貨物とに別ける。貨物は1個毎に計量する。

荷物についてはア拓の大前氏のあっ旋、指示により移住者自身運搬等を行う。既にブエノスでパラグァイ国入国査証のためアルゼンティン大使館に一括あずけた旅券をここで大使館員より受取る。

4時3等乗客より乗船開始、手荷物扱のトランク、バッグ等は移住者自身が船室に持ち運ぶ。

前記の貨物（チッキ）の分は大人1人につき30キロまで無料であるが、殊更チッキにする必要はなく、船内に持込んでもよいが、相当の才数があり、船内持込は可成りの無理がある。チッキの分で梱包不充分のものは、希望により地元業者により鉄帯をかけてもらうことができるが、鉄帯は大小に拘わらず1本につき5ペソ支払う。多少割高（日本円約50円）ではあるが、エンカルナシオまでの経路では荷物の積下しの回数も多く、途中抜取りの災難予防にも鉄帯の補強は無駄ではないと思う。

(d) 河　船

3等船室は長テーブル4脚が2列あり両側に長椅子があるのみで非常に粗末な所で、現地人乗客は床にごろ寝している。移住者に2脚のテーブルを占有させ荷物を1ケ所に集める。5時出帆。河船（General artigas号）は翌朝コンセプシオン・デル・ウルグァイに到着予定であるが1夜就床のためには寝台券を求めなければならない。寝台券は大人1人26ペソで別にチップとして5ペソ支払うから計31ペソである。7才以下の子供は無料。寝室は男と女は別々で、3段式ベット。今回のフラム行移住者26名の場合は女性のみ寝台券を求め就寝させ、男子は手荷物の監視のため、若年者1名を除いては全員寝台券は求めず、前記3等船室に止まり不寝番を行う。既にブエノス・アイレスで購入済みの食糧で簡単な夕

食をする。この室は、室という形態にはほど遠く寒風は容赦なく吹き込み肌をさす。移住者は毛布を被って寒さをしのいだ。又、交替で小室の船室に移住者を眠かせたりしたが、殆どは徹夜の状態で、コンセプシオン・デル・ウルグアイ到着を待った。船は翌14日午前8時到着。

(e) コンセプシオンからポサダス（汽車）まで

コンセプシオン・デル・ウルガイについたのは午前8時、河船はポサダス行の汽車ホームに横附けされるから、下船すると目の前に列車がある。河船と列車との間隔はわずか10米たらずである。

移住者の席は最前列の箱であるが、これは何時の場合でも指定されていて同じである由。この鉄道は一等と二等のみで三等はない。併し二等と云っても粗末な客車で席はベンチ式である。9時35分発車したが汽車の動揺はひどく23時間乗り続けることは相当体にこたえる。車中でルイス号事務長の厚意による弁当をひろげる。沿線ではオレンジ（6個で1ペソ）のみで食べ物は求めることができないから、移住船を下船してからの食 はあらかじめ用意することは云うまでもないが、水筒か魔法瓶に水を入れて所持することは非常に大切であり必需品とも云える。ポサダスには予定より一時間早く午前8時30分ホームに停車した。

(f) ポサダスよりエンカルナシオンまで

ポサダス駅で海協連職員の出迎えをうける。荷物は移住者自身の手で貨車から搬出。海協連の手配によるトラックに積込み3名上乗りさせる。他の移住者はバスに乗車、約千米離れたラプラタ河畔のエンカルナシオンに渡るランチ発着所に向った。ランチ発着所まで約十分で到着する。直ちにア国官吏による旅券の検閲をうけたが大した時間は要せず街頭で立ったまゝ行った。人数が少いので荷物と同時に移住者も乗船、午前十時離岸、河幅約千米のパラナ河を三十分かゝって対岸

のエンカルナシオンに到着した。

(8) エンカルナシオンにて

ランチは桟橋に着くのではなく、河辺に着く。上陸と同時にパ国移民官の旅券検閲と名簿の照合を道路上で立ったまま行う。

海協連手配のトラックに荷物を積込み移住者もこれに便乗する。約2粁離れた収容所へと向う。午前11時40分パラナ川を背景に広大な草原の中にある収容所へ到着した。

収容所へ落着いた移住者は旅装を解いて次の行動である山入の準備をするのであるが遅れて来る船倉荷物が到着するまで約一週間滞在することとなる。

（ルイス号星野舎助監督の報告より）

## (イ) サンファン入植地

(a) 一般営農状況

現在サンファン入植家族数は分家せるものを含み67家族にして、その作付状況は陸稲を主作として185.5ヘクタール、家畜飼料用としてとうもろこし約35ヘクタール、ユカ10ヘクタールを作付けし、その他自家用として蔬菜・豆類・果樹等を、又一部家族においてウルクー・コーヒー・カカオの試作を行っている。

サンタクルース州における32年度産米は全般的に不作であったが、当移住地一帯は比較的気象の悪条件が少く、約70トンの収量を得た。米価も前年に比し好調で最高1アローバ当り、24,500ボリビアーノスに達し、生計に多少ゆとりのある移住者は有利に米の販売を行い、旧入植者16家族中3家族は一千万ボリビアーノス以上の純収益をあげた。

本年度の陸稲作付状況は、旧入植者グループは過去2ケ年の米作好調に刺激され、本年度はさらにこれを拡張すべく早期に伐さいを開始し、かつその面積も前年度に比し可成広面積の伐さいを行ったが(10ヘクタール以上のもの4家族)7月より異常降雨が続き山焼が充分に行われず(降雨のため伐木及び地表の枯葉が流失しかつ雑草の生育が旺盛でその上随所に水溜を生じ山焼は益々困難な状態となった。)伐開面積に対しわずかに15%の山焼、整地しかできない者もあった。

6月に入植せる27家族(分家2家族を含む)は気象条件が一時的に恵まれ、かろうじて山焼が順調に行われ全般的に旧入植者より遥かに好成績を収め得た。

第二次入植者20家族は現地到着前引受側において2～3ヘクタールの伐開を行ってあったが、伐開中より既に降雨が続き現地到着後もしばらく山焼が不能で1月上旬に至り辛じて一週間の晴天が続き山焼を開始した。しかし大部分の伐開地は相当浸水

しかつ山焼の時期を失したため雑草が繁茂して山焼ができなかったところもあつたが、極力寄せ焼きを行う一方焼けないところはそのまゝ整地しそれぞれ0.5〜1ヘクタールの陸稲を播種した。当地における陸稲播種期は1月上旬、中旬頃までが限度でそれ以降に播種したものは収穫時南方よりの寒風によつて収穫皆無となるおそれがあり、従つて今後整地したところにはとうもろこし（年中作付可能）豆類等を作付ける予定である。

本年度の陸稲栽培において低湿地の栽培が数家族によつて試験的に試みられ、非常な成果を収め、現在他の乾地におけるものより生育・分けつが遙かに良好であり、その収穫が期待されている。即ち低湿地で雨期に浸水するところは、乾期にもし充分なる山焼さえ行われれば普通の土地より米作には好条件であり、次期作付には本格的にこの方法を採入れる計画である。

そ菜・果樹は市場並びに輸送の関係上、自家用程度にとゞまり広面積の作付は行われていないが、一部の家族にはバナナ・柑橘を可成り多く作付しているものもある。

次に家畜は現在のところ自家用程度に過ぎないが豚はポイントフオア試畜場よりポーランドチヤイナ種を購入し盛んに増殖中で将来は豚肉加工を行う計画をたてている。役牛についてはしばしば未国当局よりも勧奨をうけたが現在の営農段階では各ロツテに鉄条網を設けて放牧飼育することは困難であり、特定地に共同放牧場を設けるか、将来有畜農法をとり入れ牧草の輪作ができるようになつた後にこれを飼育することが適当と思われる。

(b) 営農形態

現在各家族とも陸稲を中心とし、新規伐開地は全面的にこれが作付を行つている。2年度以降の土地については次の如くそれぞれ家族により異つた作付けを行つており未だ一定の輪作形態は確立されていない。

1. 普通の土質には陸稲を連作し砂質土にはとうもろこし又はユカ等を作付ける。

2. とうもろこし・豆類・ユカ等を作付ける。
3. 休閑させ、バルベッチヨにする。但しこれはごく稀れであります。
4. 果樹その他永年作物を作付ける。

三年度においては、一部ユカを作付けることもあるが大体においてほとんど休閑せしめている。
なおこれを図表で示せば次の通りである。

米（一部とうもろこし混作） → とうもろこし 豆類 → ユカ → 休閑

米（一部とうもろこし混作） → 豆類 米 とうもろこし → ユカ → 休閑

米（一部とうもろこし混作） → とうもろこし 豆類 ユカ → 休閑

サンフアン地区の地味は中等度であり適当なる輪作を行わぬ限り地力は著しく減退するものと思われるが、従来の経過より見て米の二回連作は可能であり、又輪作の順序としては

米　　とうもろこし 豆類　　ユカ 甘藷　　休閑（一部に果樹その他の永年作物）

が適当と思われる。
なお将来はでき得れば3年目頃にブルトーザを入れて抜根整地し、トラクターによる耕作を可能ならしめることが望ましく、この場合は更に合理的な輪作方法並びに土地の利用が行われることとなろう。
現在生産物の市場性並びに単位当りの収益率は米が第一であり、亦サン・フアン地区一帯はサンタ・クルース州における米作適地でもあり、現状においては必然的に米作に重点を置いているが当国の米の需給状況よりみて（サンタクルースの生産高15,000トンで国内需給を充足するには更に11,000トンが不足と称されている）現在の状況は永続性が期待できず従って従来の短期作物就中米作を中

心とする営農形態の転換乃至は改善を行わねばならぬ時期が遠からず到来するものと予測せられる。

現在この点を考慮し1部の家族はコーヒー、カカオ、優良柑橘等の試作を行っているが、この外茶、ピメンタ、マニラ麻等の栽培も有望であり今後の試作研究の結果を得た上で、これらの永年作物を本格的に採入れる方針である。

尚加工面においても、粉製造、小規模なる搾油事業、畜産加工等が有望と思われる。

## (C) サン・ファン植民地の営農状況

1956～1957年度

総計　67家族　334人

開墾面積　1956年度　334 ha., 1957年度　314.5 ha

家畜数　鶏 870羽，豚　85頭，馬　41頭

| 入植年度 | 1955.7 | 1956.5 | 1957.1 | 1957.6 | 1957.12 |
|---|---|---|---|---|---|
| 戸数 | 15戸 | 1 | 1 | 30 | 20 |
| 平均家族人員 | 5.4人 | 1 | 1 | 5.3 | 4.6 |
| 稼働力 | 2.8人 | 1 | 1 | 2.8 | ― |
| 1956年度開墾面積 | 5.6ha | 2.2 | ― | ― | ― |
| 米の作付面積 | 5.6ha | 2.5 | ― | ― | ― |
| 全収穫量（キンタール） | 95 | 50 | ― | ― | ― |
| 1957年度開墾面積 | 7.8ha | 5 | 5 | 4.9 | 2.7 |
| 家畜数　鶏 | 48羽 | ― | ― | 5 | ― |
| 家畜数　豚 | 3.6頭 | ― | ― | 1 | ― |
| 家畜数　馬 | 1.1頭 | ― | ― | 0.8 | ― |

その他の作物

1) 玉蜀黍　主として自家の家畜飼料用として栽培　作付面積　35ha

| | | | |
|---|---|---|---|
| 2) ユ　カ | 主として自家の家畜飼料用として栽培 | 作付面積 | 10 ha |
| 3) 大豆その他野菜 | 自家食糧 | | 5 〃 |
| 4) 果　樹 | バナナ、パインアップル パパイヤ、柑橘類等 | | 15 〃 |
| 5) そ の 他 | ウルクー、コーヒー カカオ | 小面積に試作 | |

（註）1. 1955年入植の移住者は1957年度の伐開面積に対する陸稲作付面積は全般的に著しく少いが、これは伐開を早期に行い過ぎたためと、例年に比して山焼、播種時期に雨量が多く、山焼が充分に行われなかった結果によるものである。

2. 1957年12月入植者は入植前予め2〜3ヘクタールの伐開を行ってあったが、異常降雨のため山焼が充分行われず、且つ播種時期の関係上、陸稲は自家用程度の作付に止まった。なお余剰伐開地は今後漸時整地して玉蜀黍、豆類等を作付ける予定である。

# (イ)アマゾン流域の入植地一覧表

## a. 面積

単位町歩

| | グアマ | モンテアレグレ | ベラヴィスタ | マタピー | ファゼンダンニヤ | トレーゼ・デ・セッテンブロ | タイアーノ | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 総面積 | 32,000 | 456,000 | 300,000 | 4,800 | 15 | 1,435 | 2,000 | 796,255 |
| 邦人所有面積 | 2,800 | 1,890 | 1,250 | 990 | 15 | 900 | 390 | 8,655 |
| 邦人一戸当り所有面積 | 20 | 30 | 30 | 30 | 3 | 30 | 30 | |

## b. 人口

| | グアマ | モンテアレグレ | ベラヴィスタ | マタピー | ファゼンダンニヤ | トレーゼ・デ・セッテンブロ | タイアーノ | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 総入植家族数 | 190家族 | 1,063 | 290 | 103 | 5 | 49 | 39 | 1,739 |
| 伯人入植家族数 | 50" | 1,000 | 250 | 75 | — | 19 | 26 | 1,420 |
| 邦人入植家族数 | 140" | 63 | 40 | 28 | 5 | 30 | 13 | 319 |
| 邦人入植者数 | 802人 | 385 | 261 | 142 | 32 | 192 | 64 | 1,878 |

## c. 教育

| | グアマ | モンテアレグレ | ベラヴィスタ | マタピー | ファゼンダンニヤ | トレーゼ・デ・セッテンブロ | タイアーノ | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学校数 | 1 | 2 | 3 | 1 | — | 1 | 1 | 9 |
| 教員数 | 5人 | 3 | 3 | 2 | — | 1 | 2 | 16 |
| 児童数 | 220" | 99 | 90 | 43 | — | 79 | 120 | 651 |
| 伯人児童数 | 70" | 20 | 50 | 9 | — | 25 | 103 | 277 |
| 邦人児童数 | 150" | 79 | 40 | 34 | — | 54 | 17 | 374 |

備考

1). グアマ植民地はベルナンブーコ地区に近く一校開校の予定。教員として日系伯人小谷エリザベッテ嬢が既に着任。

2). ベラ・ヴィスタは校舎は3校あるも、赴任する教員なく、現在開校しているものは1校のみ。

3). ファゼンダンニヤは、近所のブラジル人学校に通学。

4) タイアーノには、入植者の個人奉仕による"わかば学園"なる私塾があって、葡語と日本語の教育をしている。

d. 衛 生

| | グアマ | モンテアレグレ | ベラヴィスタ | マタピー | ファゼンジンニャ | トレーゼ・デ・セッテンブロ | タイアーノ | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 病院 | 1棟 | 1 | — | — | — | — | — | 2棟 |
| 診療所 | 1" | — | 1 | | | | 1 | 3" |
| 医師 | (嘱託)1人 | — | (嘱託)1 | — | — | — | (嘱託)1 | 3人 |
| 看護夫 | 3人 | — | — | 1 | — | — | 1 | 5人 |
| 看護婦 | — | — | 1人 | — | — | — | — | 1人 |
| 治療費 | 不要 | 不要 | 要 | 不要 | — | 不要 | 不要 | |
| 衛生状態 | 良 | 良 | 良 | 良 | 良 | 良 | 概して良 | |

補考 1) 嘱託医は、グアマはベレーンより、ベラ・ヴィスタはマナオスより週1回来診、タイアーノはボア・ヴィスタより乾燥期に時々出張診療の予定なるも稀である。

2) トレーゼ・デ・セッテンブロ植民地には病院は無いが、ポルト・ヴェーリョ市の施療院を利用している。またマラリヤ薬より医師が時々来診する。薬品は直轄地政府より無料配付される。

3) グアマでも、難症の患者はベレーン市のサンタ・カーザに送られ、無料治療を受けている。

4) ファゼンジンニャはマカパー市の病院を利用している。

5) タイアーノは概して健康地であるが、マラリヤに似た風土病がある。但し軽症である。

e. 交 通

| | グアマ | モンテ アレグレ | ベラ ヴィスタ | マタピー | ファゼン ジンニヤ | トレーゼ・デ セッテンブロ | タイアーノ | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 附近の都市 | ベレーン | モンテ アレグレ | マナオス | マカパー | マカパー | ポルト ヴェーリョ | ボア ヴィスタ | |
| 都市への距離 | (a) 48 km<br>(b) 84 km | (a) 38 km<br>(b) 45 km | (a) 30 km<br>(b) 10 km | 127 km | 12 km | 9 km | (a) 90 km<br>(b) 150 km | |
| 道路の良否 | — | 悪 | 悪 | (a) 良<br>(b) 悪 | 良 | (a) 良<br>(b) 悪 | (c) 良<br>(d) 悪 | |
| 定期便 | 船 不定期 | 週2回 | (a) 週2回<br>(b) 不定期 | 週3回 | 毎日 定期 | 週2回 | 週1,2回 | |

備考 1) グアマでは(a)はカラパルー地区より、(b)はペルナンブーコ地区よりベレーンまでの距離.

2) モンテ・アレグレでは(a)はアサイザール地区より、(b)はドイスガーリヨ地区よりモンテ・アレグレ町までの距離。

3) ベラ・ヴィスタでは(a)はカカオペレイラより船着場までの陸路距離、(b)は船着場よりマナオスまでの水路距離および陸運と水運.

4) マタピーでは(a)はマカパー市より植民地までの道路、(b)は植民地内の道路.

5) トレーゼ・デ・セッテンブロでは(a)はポルト・ヴェーリョ市より植民地までの道路、(b)は植民地内の道路.

6) タイアーノでは(a)はボア・ヴィスタまでの道路、(b)は水路距離を示し、(c)は植民地内の道路、(d)はボア・ヴィスタ市までの道路。なおトラックは雨期には通ぜず、乾燥期に定期便が週1,2回あり。雨期は水運に依存。

f) 組合

| | グアマ | モンテ アレグレ | ベラ ヴィスタ | マタピー | ファゼン ジンニヤ | トレーゼ・デ セッテンブロ | タイアーノ | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 組合 | — | 55名 | 40 | 28 | — | 30 | 13 | 166 |
| 出資金 | — | 250.000.- | — | 140.000. | — | — | — | 390.000.- |

備　考 ― グァマ植民地は、従来の出荷組合を解散、近く伯国人をも包含した一大組合を結成すべく、現在その準備中である。

9) 収　穫　量

| | | グァマ | モンテアレグレ | ベラヴィスタ | マタピー | ファゼンジンニャ | トレセ・デセンテンブロ | タイアーノ | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 白米 | 1957 | 2.848 俵 | 3,190 | 680 | 838 | ― | 1.926 | 69 | 9.551 |
| | 1956 | 210 | 2.629 | 636 | 679 | ― | 1.800 | 641 | 6.595 |
| 玉蜀黍 | 1957 | ― | 4.900 俵 | 200 | 66 | ― | ― | 575 | 5.742 |
| | 1956 | ― | 6.090 | 170 | 60 | ― | ― | 356 | 6.676 |
| 豆 | 1957 | ― | 1.580 俵 | 53 | 9 | ― | ― | 56 | 1.698 |
| | 1956 | ― | 1.093 | 40 | 81 | ― | ― | 11 | 1.225 |
| 菜豆 | 1957 | ― | ― | ― | ― | ― | 2.905 kg | ― | 2.905 |
| | 1956 | ― | ― | ― | ― | ― | 790 | ― | 790 |
| マジョカ | 1957 | ― | ― | ― | 56.800 kg | ― | ― | ― | 56.800 |
| | 1956 | ― | ― | ― | 41.800 | ― | ― | ― | 41.800 |
| ファリンニャ | 1957 | ― | ― | 963 俵 | 724 | ― | ― | 240 | 1.927 |
| | 1956 | ― | ― | 770 | 283 | ― | ― | 395 | 1.448 |
| マカセーラ | 1957 | ― | ― | 10,350 kg | 32.900 | ― | 343,140 | ― | 386,380 |
| | 1956 | ― | ― | 9.700 | 63.400 | ― | 64.903 | ― | 138.003 |
| アバカシー | 1957 | ― | ― | 58.400 個 | 27.870 | ― | 18.514 | ― | 104.784 |
| | 1956 | ― | ― | 23.200 | 19.595 | ― | 14.040 | ― | 56.835 |
| 落花生 | 1957 | ― | 32,500 kg | 4.540 | 985 | ― | ― | ― | 38.025 |
| | 1956 | ― | 29.485 | 4.020 | 1.395 | ― | ― | ― | 44.900 |
| 胡椒 | 1957 | ― | ― | ― | 1.265 kg | ― | ― | ― | 1.265 |
| | 1956 | ― | ― | ― | 1.075 | ― | ― | ― | 1.075 |
| 煙草 | 1957 | ― | 41.000 kg | ― | ― | ― | ― | ― | 41.000 |
| | 1956 | ― | 32.755 | ― | ― | ― | ― | ― | 32.755 |
| ジート種子 | 1957 | ― | 25.000 kg | ― | ― | ― | ― | ― | 25.000 |
| | 1956 | ― | 24.260 | ― | ― | ― | ― | ― | 24.260 |

| | | グアマ | モンテアレグレ | ベラヴィスタ | マタピー | ファゼンジンニヤ | トレーゼ・デ・セッテンブロ | タイアーノ | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 果物 | 1957 | — | — | 920 Kg | 4.500 | — | — | — | 5.420 |
| | 1956 | — | — | 630 | 1.200 | — | — | — | 1.830 |
| 野菜 | 1957 | 1200.000 Cr | — | 900.000 | — | 1.450.000 | — | — | 3.550.000 |
| | 1956 | 366.000 | — | 662850 | — | 1.150.000 | — | — | 2.178.850 |

備考　1) 1957年度は1957年1月～12月、1956年度は1956年1月～12月

2) グアマ植民地は第3次入植までの61家族による。(昨年度は第1次入植者の15家族のみ)

h) 農業収入

| | | グアマ | モンテアレグレ | ベラヴィスタ | マタピー | ファゼンジンニヤ | トレーゼ・デ・セッテンブロ | タイアーノ | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 総収入 | 1957 | 3193.600 Cr | 7323.500 | 2246.400 | 1624675 | 1.450.000 | 2.094.031 | 395.150 | 18.327.356 |
| | 1956 | 491.972 | 5964.350 | 1.693.350 | 1.161.175 | 1.156.000 | 1.355.946 | 930.800 | 12.747.593 |
| 一戸当り収入 | 1957 | 52.340 | 116.250 | 56.160 | 58.020 | 290.000 | 69.800 | 30.400 | 53.115 |
| | 1956 | 32.798 | 94.672 | 42.334 | 40.145 | 230.000 | 45.198 | 71.600 | 556.747 |

備考　1) グアマ植民地の昨年度収入は、15家族のみにより、本年度は第3次までの61家族である。

2) タイアーノ植民地が昨年の半分以下に収入が減ったことは、旱魃のための米の減収による。

i) 永年性作物植付数および評価

| | | グアマ | モンテアレグレ | ベラヴィスタ | マタピー | ファゼンジンニヤ | トレーゼ・デ・セッテンブロ | タイアーノ | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ゴム | 植付本数 | — | 3.869 | 54.950 | 224.477 | — | 106.772 | — | 390.068 |
| | 評価(Cr) | — | 154.760 | 2.198.000 | 8.979.080 | — | 4.270.880 | — | 15.602.720 |
| カカオ | 植付本数 | 920 | 12.460 | 4.370 | 1.149 | — | — | 165 | 19.064 |
| | 評価(Cr) | 73.600 | 996.800 | 349.600 | 91.920 | — | — | 13.200 | 1.525.120 |
| コーヒー | 植付本数 | — | 18.446 | 41.200 | 255 | — | 5.163 | 6.002 | 71.066 |
| | 評価(Cr) | — | 722.300 | 2.060.000 | 12.750 | — | 258.150 | 500.100 | 3.553.300 |

| | | グァマ | モンテアレグレ | ベラヴィスタ | マタピー | ファゼンジンニャ | トレーゼデセッテンブロ | タイアーノ | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| グヮラナー | 植付本数 | — | 705 | 23.280 | — | — | — | — | 23.985 |
| | 評価(Cr) | — | 35.250 | 1.164.000 | — | — | — | — | 1.199.250 |
| 胡椒 | 植付本数 | — | 2.239 | 1.066 | 618 | — | 178 | 311 | 4.412 |
| | 評価(Cr) | — | 447.800 | 213.200 | 123.600 | — | 35.600 | 62.200 | 882.400 |
| シザール | 植付本数 | — | 110 | 500 | 38.312 | — | — | — | 38.922 |
| | 評価(Cr) | — | 550 | 2.500 | 191.560 | — | — | — | 194.610 |
| 椰子類 | 植付本数 | 723 | 3.107 | 110 | 17.920 | — | — | 7 | 21.867 |
| | 評価(Cr) | 36.150 | 155.350 | 5.500 | 896.000 | — | — | 350 | 1.093.350 |
| 果樹類 | 植付本数 | 21.097 | 5.768 | 13.500 | 9.100 | — | 5.763 | 610 | 55.838 |
| | 評価(Cr) | 1.054.850 | 288.400 | 675.000 | 455.000 | — | 288.150 | 30.500 | 2.791.900 |
| その他 | 植付本数 | — | — | — | — | — | — | 1.980 | 1.980 |
| | 評価(Cr) | — | — | — | — | — | — | 59.400 | 59.400 |
| 總計 | 植付本数 | 22.740 | 46.704 | 138.976 | 291.831 | — | 117.876 | 9.075 | 627.202 |
| | 評価(Cr) | 1.164.600 | 3.001.210 | 6.667.800 | 10.749.910 | — | 4.352.780 | 465.750 | 26.902.050 |
| 一家当平均 | 植付本数 | 356 | 741 | 3.747 | 10.423 | — | 3.929 | 698 | 2.613 |
| | 評価(Cr) | 19.042 | 47.130 | 166.700 | 383.925 | — | 161.754 | 35.827 | 112.092 |

備考　評価基準一本当り

ゴム：40Cr　カカオ：80Cr　コーヒー：80Cr

グヮラナー：50Cr　胡椒：200Cr　シザール：5Cr

椰子類：50Cr　果樹類：50Cr　その他：30Cr

（註）マサゴン植民地は、漸くロッテに入ったばかりであるので、本表に記入すべき営農成績が無いため、省略した。

# (イ) 入植状況一覧表（中伯）

| | ピウン連邦植民地 | イツベラ植民地 1 | イツベラ植民地 2 | ウナ連邦植民地 1 | ウナ連邦植民地 2 | ウナ連邦植民地 3 | ドラードス植民地 1 | ドラードス植民地 2 | ドラードス植民地 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入植年度 | 昭和31年7月 | 29年1月 | 32年3月 | 28年10月 | 31年3月及5月 | 32年3月 | 28年7・8月 | 29年2月 | 31年3月及6月 |
| 入植戸数 | 9戸 | 10戸 | 6戸 | 25戸 | 11戸 | 1戸 | 59戸 | 15戸 | 24戸 |
| 現在数 | 10戸(分家) | 3戸 | 6戸 | 12戸 | 10戸 | 1戸 | 50戸 | 12戸 | 16戸 |
| 生活状況 | 安定 | 安定 | | 安定 | 未だ安定せず | | 安定 | 安定 | 安定 |
| 経済状況 | 良好 | 良好 | 未だ生産に至らず | ゴム樹植付資金を必要としている。 | | | 33年よりコーヒーの収穫がはじまる。 | 良好 | 良好 |

生活及営農収，支状況（平均）

| | | ピウン連邦植民地 | イツベラ植民地 | ウナ連邦植民地 | ドラードス植民地 |
|---|---|---|---|---|---|
| 収入の部 | 蔬菜類販売手取金 | 60.000 Cr | 80.000 Cr | | |
| | 植民地当局融資 | 45.000 | | | |
| | 不足金(貯金より充当) | 17.000 | | | |
| | その他 | | 2.000 | | |
| | 合計 | 122.000 | 82.000 | | |
| 支出の部 | (生活費) | | | | |
| | 食糧品 | 39,000 | 15.000 | | |
| | 衣服費 | | 6.000 | | |
| | 医療・教育娯楽費 | 5,000 | 6.000 | | |
| | 雑費 | 5,000 | 4.000 | | |
| | (営農費) | | | | |
| | 肥料及種苗 | 35.000 | 6.000 | | |
| | 人夫雇用費 | 28.000 | 36.000 | | |
| | 植民地当局融資返済 | | | | |
| | 雑費 | 10.000 | 6.000 | | |
| | 合計 | 122.000 | 79.000 | | |

ピウンの入植第2年度の収支予想では33.500程度の剰余が見込まれる。

## ◎ 中伯移住地の営農収支の事例

### (a) ピウンの例

家族人員 9名 稼働人員 5名

入植年月日 昭和31年7月

ロッテの面積
- 高地 9.5町
- 低地 3.5町
- 農務大臣よりの貸与地 1.0町

昭和31年7月より昭和32年6月までの収支計算

**収入の部** 128.368 Cr

1) 営農収入(蔬菜) 65.200
2) 連邦植民地当局融資 45.000
3) 携行資金充当 18.168

**支出の部** 128.868 Cr

| 項目 | 消費量 | 単価 Cr | 金額 Cr |
|---|---|---|---|
| A、生活費 | | | 69.868 |
| 1. 食糧費 | | | 60,108 |
| 白米 | 1,980kg | 20 | 39.600 |
| メリケン粉 | 96 | 18 | 1.728 |
| 砂糖 | 240 | 12 | 2.880 |
| 肉類 | 77 | 65 | 5.050 |
| 塩 | 36 | 5 | 180 |
| 食用油 | 130 | 50 | 6.500 |
| その他 | (日雇人夫の昼食を含む) | | 4.170 |
| 2. 光熱費 | | | 1,080 |
| 石油 | 8缶 | 13.5 | |
| 3. 医療費 | | | 3.680 |
| 4. 交際、教育、娯楽費 | | | 5.000 |
| B. 経営費 | | | 51.500 |
| 1. 種苗費 | | | 3.000 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 2.農器具費 | | | 650 |
| 3.肥料費 | | | 22.750 |
| 4.日傭人夫雇入費 | 延627人 | 40 | 25.100 |
| C.備品費 | | | 7.000 |
| 家具類 | | | 7.000 |

（b）イツペラ連邦植民地の例

家族人員　5名　　稼働人員　2名

入植年月日　昭和29年1月

ロッテの面積　20町歩

昭和31年7月より昭和32年6月までの収支計算

収入の部　　82.000 Cr

1）営農収入（蔬菜類）　72.000

2）雑収入（電気モーター修理等）　10.000

支出の部　　75.200 Cr

| 費目 | 消費量 | 単価 Cr | 金額 Cr |
|---|---|---|---|
| A.生活費 | | | 35.500 |
| 1.食糧品 | | | 26.800 |
| 白米 | 6俵 | 1.000 | 6.000 |
| メリコン粉 | 5 〃 | 600 | 3.000 |
| パン | | | 1.200 |
| 砂糖 | 150瓩 | 12 | 1.800 |
| 生肉 | 100 〃 | 30 | 3.000 |
| 燻肉 | 100 〃 | 30 | 3.000 |
| 食用油 | 30ℓ | 60 | 1.800 |
| マカロン | 50瓩 | 20 | 1.000 |
| 玉ねぎ<br>にんにく | 100 〃 | 20 | 2.000 |
| 酒類 | 20 〃 | 50 | 1.000 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| その他 | (主食の補充としてマンジョカを自給している) | | 3.000 |
| 2.光熱費 | マッチその他(電気代燃料) | | 300 |
| 3.被服費 | | | 5.500 |
| 4.医療費 | | | 500 |
| 5.交際、教育、娯楽費 | | | 1.200 |
| 6.雑費 | | | 1.200 |
| B.営農費 | | | 39.700 |
| 1.種苗費 | | | 2.400 |
| 2.器具費 | エンシャダ その他 | | 1.300 |
| 3.日傭人夫雇入費(蔬菜分) | 延360人 | 50 | 18.000 |
| 4.日傭人夫雇入費(永年作物分) | 延360人 | 50 | 18.000 |

利余金　6.800 Cr

育生中の永年作物

クラボ　2年生　300本

〃　1年生　200〃

蜜柑　50〃

(注)近くゴム樹の植付けを開始する。

家畜

豚　5頭

鶏　20羽

(C)ウナ連邦植民地の例

家族人員　9名　稼動人員　5名

入植年月日　昭和28年10月5日

ロッテの面積　30町歩(大川に面し起伏甚しい)

昭和31年1月より昭和31年12月までの収支計算

収入の部　134.400 Cr

| 費目 | 生産量 | 単価 Cr | 金額 Cr |
|---|---|---|---|
| 1. 営農収入 | (販売手取金) | | 107.000 |
| マンジョカ粉 | 300袋 | 250 | 75.000 |
| パインアップル | 10000個 | 2 | 20.000 |
| バナナ | 200房 | 50 | 10.000 |
| 野菜類 | | | 2.000 |
| 2. 林産収入 | | | 4.800 |
| 木炭 | 600缶 | 8 | 4.800 |
| 3. 雑収入 | | | 3.000 |
| 4. 連邦植民地会社融資(1957年より) | | | 19.600 |

支出の部　　107,155 Cr

| 費目 | 消費量 | 単価 Cr | 金額 Cr |
|---|---|---|---|
| A. 生活費 | | | 66.525 |
| 1. 食糧品 | | | 47.815 |
| 白米 | 13袋 | 930 | 12.090 |
| メリケン粉 | 1 〃 | 550 | 550 |
| 砂糖 | 5 〃 | 600 | 3.000 |
| 生肉 | 400瓩 | 25 | 10.000 |
| 乾燥肉 | 150 〃 | 55 | 8.250 |
| 油脂 | 60ℓ | 55 | 3.300 |
| マカロン | 100Kg | 20 | 2.000 |
| 食塩 | 75 〃 | 5 | 375 |
| コーヒー | 50 〃 | 45 | 2.250 |
| 玉ねぎ<br>あーりょ | } 30 〃 | 20 | 600 |
| 酒類 | 60本 | 15 | 900 |
| その他 | (主食の補充としてマンジョカ粉自給) | | 4.500 |
| 2. 光熱費 | | | 1.820 |
| 石油 | 12缶 | 110 | 1.320 |
| マッチ、その他 | | | 500 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 3. 被服費 | | | 8.000 |
| 4. 医療費 | | | 1.200 |
| 5. 交際、教育、娯楽費 | | | 2.500 |
| 6. 雑費(住宅屋根ふき替賃含) | | | 5.190 |
| B. 営農費 | | | 20.580 |
| 1. 種苗費 | | | 2.500 |
| 2. 農具費 | | | 0 |
| 3. マンジョカ工場燃料 | | | 880 |
| 4. 日傭人夫雇入費 | 延300人 | 50 | 15.000 |
| 5. 交通費 | | | 2.200 |
| C. 施設費 | (マンジョカ粉工場新設) | | 20.050 |
| 作業場 | 5ᵐ×12ᵐ | | 5.000 |
| モーター代 | 2人共同1人分 | | 7.000 |
| ベルト代 | 3ᵐ | 100 | 300 |
| カマド用煉瓦代 | 3.500枚 | 0.5 | 1.750 |
| 鉄板 | 2" | 500 | 1.000 |
| その他材料 | | | 1.800 |
| 手間代 | 延40人 | 80 | 3.200 |

剰余金　27.245 Cr

育生中の永年作物

1) ゴム　3年生　900本
　　　　2年生　2.500本　計3.400本
2) カカオ　2年生　600本
　　　　1年生　1.000本　計1.600本
3) 油椰子　3年生　150本　計150本
4) ラランジャ　3年生　200本
　　　　2年生　50本
　　　　苗木　200本　計450本
5) ココヤシ　3年生　20本　計20本
6) コーヒー　苗木　4.000本　計4.000本

短期作物

1) バナナ　2.000本

2) パインアップル　15.000本

3) マンジョカ　{ 1年以上　7町歩
　　　　　　　{ 1年以下　8町歩　計 15町歩
（1部他のロッテ使用）

家畜

馬　1頭

中豚　1頭

鶏　10羽

なおスイ共同にてマンジョカ加工場を所有する。

# パラグァイ国エンカルナシオン市内小売物価表

昭和33年3月現在調

価格単位 ガラニー（1米弗 110ガラニー替）
〃 円 （1米弗360円替）

ガラニーの円換算価額 3.27円

| 品目 | 数量 | 価格(ガラニー) | 価格 円 |
|---|---|---|---|
| 米 | 1キロ | 16 | 52.32 |
| | 1升 | 22.4 | 73.25 |
| 牛肉ロース | 1キロ | 25 | 82.00 |
| | 100匁 | 9.38 | 30.75 |
| バター | 1キロ | 150 | 495.00 |
| | 1ポンド | 56.8 | 185.62 |
| 牛乳 | 1立 | 12 | 39.00 |
| | 1升 | 21.5 | 70.20 |
| 食油 | 1立 | 120 | 392.00 |
| | 1升 | 215.4 | 705.60 |
| 砂糖 | 1キロ | 18 | 59.00 |
| | 100匁 | 6.9 | 22.13 |
| 塩 | 1キロ | 6 | 20.00 |
| | 100匁 | 2.3 | 7.500 |
| 小麦粉 | 1キロ | 14 | 46.00 |
| | 100匁 | 5.3 | 17.25 |
| パン | 1本(約1キロ) | 25 | 82.00 |
| | 1斤 | 11.9 | 49.20 |
| 馬鈴薯 | 1キロ | 20 | 65.00 |
| | 100匁 | 7.5 | 24.37 |
| 豆類 | 1キロ | 8 | 26.00 |
| | 1貫目 | 29.8 | 97.50 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 豚肉 | 1キロ | 35 | 131.00 |
| | 100匁 | 15.0 | 49.13 |
| トマト | 1キロ | 45 | 147.00 |
| | 100匁 | 16.9 | 55.13 |
| キャベツ | 1キロ | 15 | 49.00 |
| | 100匁 | 5.6 | 18.38 |
| ペニシリン | 30万単位1本 | 40 | 130.80 |
| 鎮痛剤 | 1個 | 3.0 | 9.80 |
| 往診料 | 1回 | 200 | 650.00 |
| 石油ランプ | | 200 | 650.00 |
| ガラス・コップ | 1個 | 28 | 91.60 |
| 包丁 | | 25 ~ 65 | 81.80 ~ 165.00 |
| スプーン | 大1ケ | 25 ~ 50 | 81.80 ~ 165.00 |
| マッチ | 1個 | 3 | 9.80 |
| 石鹸 | 1個 | 12 | 39.20 |
| 洗濯石鹸 | 1個 | 18 | 58.90 |
| 歯磨 | 小1個 | 30 | 98.00 |
| 歯ブラシ | 1本 | 30 ~ 70 | 98.00 ~ 228.90 |
| ハンカチ | 1枚 | 15 ~ 25 | 49.00 ~ 81.80 |
| 男子背広服地 | 下級品 | 2500 | 8180.00 |
| Yシャツ | 1枚 | 350 ~ 600 | 1145.00 ~ 1962.00 |
| 靴下 | 1足 | 20 ~ 120 | 65 ~ 392.40 |
| 男靴 | 1足 | 300 ~ 1200 | 981 ~ 3924.00 |
| 煙草 | 紙巻1箱16本入り | 3 ~ 30 | 9.81 ~ 98.10 |
| 石油 | 1立 | 10 | 32.70 |
| ホテル宿賃 | 食付1泊 | 50 ~ 300 | 163.50 ~ 981.00 |
| 鍬 | 1丁 | 60 ~ 190 | 196.20 ~ 621.30 |
| 釘 | 1キロ | 40 | 130.80 |
| セメント | 1俵(50kg) | 750 | 1308.00 |
| ガソリン | 1立 | 11 | 35.97 |

# アルゼンチン国小売物価価格表

昭和32年9月現在調

価格単位　1ペソ　10円

| 品目 | 数量 | 価格（ペソ） | 価格（円） |
|---|---|---|---|
| 米 | 1キロ | 5.25 | 52.50 |
| | 1升 | 7.35 | 73.50 |
| 肉 | 1キロ | 11.00 | 110.00 |
| | 100匁 | 4.125 | 41.25 |
| バター | 1キロ | 20.00 | 200.00 |
| | 1ポンド | 9.06 | 90.60 |
| 牛乳 | 1立 | 1.90 | 19.00 |
| | 1升 | 3.43 | 34.30 |
| 食油 | 1立 | 9.00 | 90.00 |
| | 1升 | 16.24 | 162.40 |
| 砂糖 | 1キロ | 4.90 | 49.00 |
| | 100匁 | 13.07 | 130.70 |
| 塩 | 1包 | 0.95 | 9.50 |
| 小麦粉 | 1キロ | 1.85 | 18.50 |
| | 100匁 | 4.93 | 49.30 |
| パン | 1キロ | 2.80 | 28.00 |
| | 1斤 | 1.67 | 16.70 |
| 馬鈴薯 | 1キロ | 2.80 | 28.00 |
| | 100匁 | 7.46 | 74.60 |
| 豆類 | | | |
| トマト | 1キロ | 10.00 | 100.00 |
| | 100匁 | 26.66 | 266.60 |

# ボリビヤ国サンタ・クルス物価表

昭和３２年５月３１日現在調

価格単位　ボリビアーノ（１米弗７７２５ボリビァーノ）

円　（１米弗　３６０円）

１ボリビアーノ　５銭（0.05円）

| 品目 | 数量 | 価格(ボリビアーノ) | 価格（円） |
|---|---|---|---|
| 白米 | １アローバ | 14000 | 700 |
| | １升 | 17043 | 85.22 |
| 牛肉 | １キロ | 3500 | 175 |
| | 100匁 | 1400 | 70 |
| 豚肉 | １キロ | 5000 | 250 |
| | 100匁 | 2000 | 100 |
| バター | １リブラ | 2500 | 125 |
| | １ポンド | 2600 | 130 |
| 牛乳 | | | |
| 食油 | ５立入 | 24000 | 1200 |
| | １升 | 9600 | 480 |
| 砂糖 | １キンタール | 70000 | 3500 |
| | 100匁 | 600 | 30 |
| 塩 | 岩塩１ケ | 2200 | 110 |
| 小麦粉 | １キンタール | 45000 | 2250 |
| | 100匁 | 400 | 20 |
| パン | １ケ | 800 | 40 |
| 馬鈴薯 | １アローバ | 9000 | 450 |
| | 100匁 | 300 | 15 |
| 豆類 | | | |
| トマト | １山 | 1000 | 50 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| キャベツ | 1ケ | 200 | 10 |
| マッチ | 1ケ | 135 | 6.75 |
| 石鹸 | 1個 | 1200~1700 | 67.5 |
| 歯磨 | | 1300 | 65 |
| ハブラシ | 1本 | 1500 | 75 |
| ズボン(作業用) | 1枚 | 18500 | 925 |
| ランニングシャツ | 1枚 | 2000 | 100 |
| 靴下 | 1足 | 4000 | 200 |
| タバコ(Derby) | 1袋10ヶ入り | 19000 | 950 |
| | 1ケ | 1900 | 95 |
| 〃 (Astory) | 1ケ | 900 | 45 |
| 石油 | 1立 | 350 | 17.50 |
| ローソク | 1本 | 500 | 25 |
| 懐中電灯 | 1ケ | 6000 | 300 |
| 乾電池 | 1組 | 4500 | 225 |
| ガソリン | 1立 | 500 | 25.0 |

# ブラジル国サンパウロ市小売物価・物価表

昭和32年9月～10月調べ

1クルゼイロ＝5円

| 品目 | 単位 | クルゼイロ | 円 |
|---|---|---|---|
| 最低賃金 | 月額 | 3800.00 | 19000.00 |
| 下宿代独身二食つき | 〃 | 1800.00 | 9000.00 |
| 米（上） | 1升 | 30.00 | 150.00 |
| 小麦粉 | 1キロ | 13.00 | 65.00 |
| パン（コッペ） | 1ケ | 1.00 | 5.00 |
| 牛乳 | 1合 | 1.64 | 8.20 |
| 牛肉（並） | 1キロ | 43.00 | 215.00 |
| 白砂糖 | 1キロ | 13.00 | 65.00 |
| 塩 | 1キロ | 7.00 | 35.00 |
| バナナ | 1本 | 0.3～0.4 | 1.50～2.00 |
| トマト | 1キロ | 20.00 | 100.00 |
| 卵 | 1ケ | 2.2～3.0 | 11.00～15.00 |
| コーヒー | 1杯（大カップ） | 2.50 | 12.50 |
| タバコ | 1箱（20本） | 10.00 | 50.00 |
| ビール | 1本 | 14.00 | 70.00 |
| 散髪料 | | 30.00 | 150.00 |
| 洋服上下一着（並） | | 2800.00 | 14000.00 |
| 靴 | | 350.00 | 1750.00 |
| ワイシャツ（木綿） | | 200.00 | 1000.00 |
| 新聞 | | 1.5～2.0 | 7.50～10.00 |
| 市内電車 | | 2.00 | 10.00 |
| 市内バス | | 3.50 | 17.50 |